

UICC日本委員会
Japan National Committee for UICC

ニュースレター

事務局 公益財団法人がん研究会 がん研究所
〒135-8550 東京都江東区有明3-8-31
Tel: 03-3570-0542 Fax: 03-3570-0546

July, 2024

uiccjapan@jfcf.or.jp

No.

29

ごあいさつ

UICC日本委員会委員長

野田 哲生



この度、UICC日本委員会ニュースレターNo.29を発行することとなりましたので、一言ご挨拶申し上げます。

これまで全世界で猛威を振るってきた新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は、感染症法上の位置付けが5類感染症となり、人々の活動範囲が広がるなど、明るい兆しが見え始めておりますが、医療現場などでは行動緩和と感染対策の狭間で難しい舵取りが求められております。UICC日本委員会 (以下、当委員会) もこれらの動きを注視しながらの活動となりましたが、そのような状況下においても多くの方々からのご支援・ご協力を頂きながら活動を行って参りました。

その中でも当委員会に於ける一大イベントでもあります毎年2月4日のワールドキャンサーデーイベントですが、今年2024年の2月4日 (日) はライトアップイベントやライブセッションを開催致しました。

今年はUICC本部が定めた3年間のキャンペーン「Close the Care Gap!」(がん医療のギャップを埋めよう)の最終年(3年目)となります。UICCは、がん治療における公平性が損なわれている現状を認識し、医療へのアクセスにおいて多くの人々に存在する障壁とこれらの障壁がどのような影響を社会に与えているのかを改めて捉え直すことを目指しています。

当委員会では、今年もがん研究会の吉田富三記念講堂を本部(配信基地局)とし、ゲストに女優・萬田久子さんをお招きして、オンライン配信によるライトアップ点灯式「ライトアップ ザ ワールド Close the care gap - 未来にひかりをつなぐ」を開催、その後にライブセッション(日本委員会主催セッション1テーマ)、オンデマンド配信によるワールドキャンサーデーセッション(メンバー組織主催セッション8テーマ)を実施致しました。



ライトアップ実施に当たりましては、本委員会メンバー組織や有志の皆様からご協力頂き、今年も全国で計16か所の施設ライトアップを実現することができました。

特設サイト (URL <https://worldcancerday-jp.org/>) をベースに、FacebookやXなどSNSを用いたキャンペーンも展開し、特設サイト内ではYouTube動画による点灯式とライブセッションの配信、オンデマンドによるワールドキャンサーデーセッションの公開を行うなど、盛りだくさんのコンテンツを多くの人々に視聴して頂ける環境を整備しました。

これらライトアップイベントの模様やワールドキャンサーデーセッション等は、特設サイトから現在もご覧頂けますので、是非、皆様アクセスしてみてください。

今年のワールドキャンサーデーイベントも無事にライトアップ点灯式並びにワールドキャンサーデーセッションの公開を行うことができました。これもひとえに皆様方のご支援とご協力の賜物と心より御礼申し上げます。引き続き、当委員会へのご支援とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

末筆ではございますが、当委員会の名誉会員でありました武藤 徹一郎先生が令和6年2月16日にご逝去されました。武藤先生に於かれましては、2006年に当委員会財務幹事としてご就任頂いた後、2012年からは名誉会員として長きに亘り、ご尽力を賜りました。当委員会への多大なる貢献に感謝申し上げますとともに、ここに黙祷を捧げ、お悔やみ申し上げます。



挨拶	野田 哲生	1
ワールドキャンサーデー		3
ライトアップ ザ ワールド.....		4
ワールドキャンサーデーオンデマンド配信セッション.....		7
事前告知.....		9
報道・掲載		10
UICCワールドキャンサーデー2024に参加して	栃木県立がんセンター 平林かおる	13
2024 ワールドキャンサーデーに参加して	埼玉県立がんセンター 神田 浩明	14
UICCでの学びが拓く未来.....	佐々木研究所 附属杏雲堂病院 梶村 春彦	15
2024年ワールドキャンサーデーに参加して		16
	世界遺産相倉合掌造り集落保存財団 中島 仁司	
UICCワールドキャンサーデー 2024 記念点灯式～岐阜より～		17
	岐阜大学医学部附属病院 宮崎 龍彦	
2024ワールドキャンサーデーへの参加と三重大学医学部附属病院からのご報告		18
	三重大学医学部附属病院 総合がん治療センター 池田 智明	
	三重大学医学部附属病院 総合がん治療センター 渡邊 昌俊	
Cross-boundary Cancer Studies.....	アジアがんフォーラム 河原ノリエ	19
UICC 日本委員会 加盟組織・役員		20



ワールドキャンサーデー

2024年2月4日(日)

オンライン開催
YouTubeにてライブ配信

ライトアップザワールド 17:30~18:15 <https://worldcancerday-jp.org>



ゲスト: 萬田久子 さん

ワールドキャンサーデーは世界中の人々が、がんのためにできることを考えて行動を起こす日です。UICC日本委員会ではオンラインで、ライトアップ点灯式とワールドキャンサーデー・セッションを加盟組織で共同開催いたします。

2月4日の夜空をブルーとオレンジの光に包むライトアップが、世界各地で行われます。日本各地の光を繋ぎ、未来にむけてがんという病への想いをひとつにする瞬間をともに分かち合しましょう。



Close the care Gap メッセージ

誰一人取り残さないがん対策を推進します。【武見敬三厚生労働大臣】
UICC は世界をつないでがんを戦います。【野田哲生UICC 日本委員会委員長】



野田哲生

UICC日本委員会委員長
(がん研究会がん研究所所長) (国立がん研究センター理事長)



中釜 斉

UICC日本委員会幹事
(日本対がん協会会長)



垣添忠生

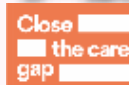
UICC日本委員会幹事
(日本対がん協会会長)



河原ノリエ

UICC日本委員会広報委員長
(東京大学東洋文化研究所特任准教授)

ワールドキャンサーデー・セッション



当日は、UICC日本委員会加盟組織によるワールドキャンサーデー・セッションを配信します。

各セッションの詳細は、ワールドキャンサーデー特設サイトをご確認ください。 特設サイトQRコード



ライトアップ点灯式 —未来に光を繋ぐ—

日本各地でライトアップの点灯式をおこない、日本国内のみならず世界にむけて、がんに立ち向かう想いを発信します。



富山 世界遺産 相倉合掌造り集落



新潟 新潟日報メディアシップ



岐阜 高山市 中橋



岐阜 岐阜市役所



長野 法相宗大本山薬師寺



三重 三重大学医学部附属病院



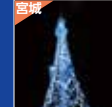
福岡 福岡市赤煉瓦文化館



中部電力 MIRAI TOWER



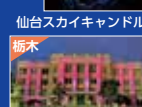
西嶋 康浩 厚生労働省 健康・生活衛生局 がん・疾病対策課長
野田哲生 UICC日本委員会委員長 がん研究会がん研究所所長
武見 敬三 厚生労働省 厚生労働大臣
河原ノリエ UICC日本委員会広報委員長 東京大学東洋文化研究所特任准教授



宮城 仙台スカイキャンドル



北海道 さっぽろテレビ塔



山形 山形県庁昭和館



神奈川 大船観音寺



埼玉 埼玉県立がんセンター



埼玉 埼玉スタジアム 2002



東京 佐々木研究所



東京 ビッグサイト

主催 UICC日本委員会 www.jfcr.or.jp/UICC

協賛 ITMS株式会社、ガーデンヘルスジャパン株式会社、株式会社ファルコバイオシステムズ

ワールド キャンサー デー

ライトアップ ザ ワールド —未来に光を繋ぐ—

開催日時：2024年2月4日(日) 17:30～19:40

ゲスト：萬田 久子（女優）

出席者：野田 哲生（UICC日本委員会委員長・がん研究会がん研究所所長）

中釜 斉（UICC日本委員会幹事・国立がん研究センター理事長）

垣添 忠生（UICC日本委員会幹事・日本対がん協会会長）

河原ノリエ（UICC日本委員会広報委員長・東京大学東洋文化研究所特任准教授）

プログラム

第一部：ライトアップ点灯式

(17:30-18:15)

- ① オープニング、ビデオメッセージ
- ② ライトアップ点灯式
- ③ ゲストとのトークセッション



野田 哲生
・UICC日本委員会委員長
・がん研究会がん研究所所長



中釜 斉
・UICC日本委員会幹事
・国立がん研究センター
理事長



垣添 忠生
・UICC日本委員会幹事
・日本対がん協会会長



河原ノリエ（司会進行）
・UICC日本委員会広報委員長
・東京大学東洋文化研究所
特任准教授

ビデオメッセージ



日本癌学会 理事長 間野 博行 先生



日本癌治療学会 理事長 吉野 孝之 先生



埼玉県立がんセンター 病院長 影山 幸雄 先生



新潟県立がんセンター 院長 田中 洋史 先生



高山市 高山市長 田中 明 様



岐阜大学 岐阜大学長 吉田 和弘 様



愛知がんセンター 総長 丹羽 康正 先生



九州がんセンター 院長 藤 也寸志 先生



がん・感染症センター 都立駒込病院 院長 戸井 雅和 先生



がん研有明病院 病院長 佐野 武 先生



ライトアップ

ライトアップ会場
全国16カ所



- ・岐阜市役所【岐阜大学・岐阜市民病院】
- ・高山市・中橋【岐阜大学・高山市】
- ・中部電力 MIRAI TOWER【愛知県がんセンター】
- ・大船観音寺【神奈川県立がんセンター】
- ・仙台スカイキャンドル【宮城県立がんセンター】
- ・佐々木研究所【(公財) 佐々木研究所】
- ・新潟日報メディアシップ
- ・新潟県立がんセンター新潟病院
- ・栃木県庁昭和館【栃木県立がんセンター、栃木県】
- ・旧日本生命保険株式会社九州支店（福岡市赤煉瓦文化館）
- ・九州がんセンター、福岡市

- ・さっぽろテレビ塔【東札幌病院、ピンクリボン in SAPPORO】
- ・三重大学附属病院【三重大学医学部付属病院】
- ・世界遺産 相倉合掌造り集落
- ・【(一社)アジアがんフォーラム、(公財)がん研究振興財団、富山大学】
- ・法相宗大本山薬師寺
- ・埼玉県立がんセンター【埼玉県立がんセンター】
- ・埼玉スタジアム2002【埼玉県立がんセンター】
- ・東京都【日本対がん協会】
- ・東京都庁

トークセッション

萬田久子さんと佐野先生



佐野 武
・UICC日本委員会
TNM委員長
・がん研有明病院病院長

第二部：ライブセッション (18:45-19:40)

「Close the care gapを目指して- テレメディシンの実現と医療情報の共有」

コメンテーター



野田 哲生 (司会進行)
・UICC日本委員会委員長
・がん研究会がん研究所
所長



間野 博行
・日本癌学会理事長
・国立がん研究センター
研究所長



吉野 孝之
・日本癌治療学会理事長
・国立がん研究センター
東病院副院長



佐野 武
・UICC日本委員会
TNM委員長
・がん研有明病院病院長

講演①遠隔医療がもたらすがん医療の世界



坂野 哲平
・株式会社アルム
代表取締役社長

講演②がん医療の発展を支えるデータ基盤



鈴木 一洋
・がん研有明病院
医療情報部副部長



ワールド キャンサー デー

オンデマンド配信セッション

Close the care gap(がん医療のギャップを埋めよう)

ワールドキャンサーデーセッション

岐阜大学医学部附属病院

ご挨拶 岐阜大学学長 吉田 和弘

1. 直腸癌治療は大きく変わります 消化器外科・小児外科学分野 松橋 延壽
2. 遺伝性乳癌卵巣癌症候群 乳癌外科 二村 学
3. 遺伝性乳癌卵巣癌症候群～婦人科～ 産婦人科 村瀬 紗姫
4. がんゲノム診断の検体管理・精度管理について 病理部 宮崎 龍彦
5. 腫瘍がん早期発見診断のために 第1内科 岩下 拓司
6. がんゲノムに対する取り組み がんセンター 牧村 明資

Close the care gap

岐阜大学医学部附属病院

1. 直腸癌治療は大きく変わります 消化器外科・小児外科学分野 松橋 延壽
2. 遺伝性乳癌卵巣癌症候群 乳癌外科 二村 学
3. 遺伝性乳癌卵巣癌症候群～婦人科～ 産婦人科 村瀬 紗姫
4. がんゲノム診断の検体管理・精度管理について 病理部 宮崎 龍彦
5. 腫瘍がん早期発見診断のために 第1内科 岩下 拓司
6. がんゲノムに対する取り組み がんセンター 牧村 明資

ワールドキャンサーデーセッション

愛知県がんセンター

地域に左右されない医療の実現に向けて：
完全オンライン治験への挑戦

登壇者：薬物療法部 医長 谷口浩也

Close the care gap

愛知県がんセンター

地域に左右されない医療の実現に向けて：
完全オンライン治験への挑戦

登壇者：薬物療法部 医長 谷口浩也

ワールドキャンサーデーセッション

新潟県立がんセンター新潟病院

橋わたしーとのご紹介
～より早期からの支援を目指して～

登壇者：
院長 田中洋史 副院長・患者サポートセンター長 竹之内辰也
緩和ケアセンター 緩和ケア認定看護師 加茂麻由子

Close the care gap

新潟県立がんセンター新潟病院

橋わたしーとのご紹介

～より早期からの支援を目指して～

登壇者：

院長 田中洋史 副院長・患者サポートセンター長 竹之内辰也
緩和ケアセンター 緩和ケア認定看護師 加茂麻由子

ワールドキャンサーデーセッション

九州がんセンター

アピアランスケアチームで取り組む
アピアランスケア

登壇者：形成外科医長 福島淳一 / 乳腺科医師 厚井裕三子 /
がん化学療法看護認定看護師 廣瀬さゆり / がん化学療法看護認定看護師 古賀祐美 /
看護師 内田喜子 / 薬剤師 筒井佑紀

Close the care gap

九州がんセンター

アピアランスケアチームで取り組む
アピアランスケア

登壇者：形成外科医長 福島淳一 / 乳腺科医師 厚井裕三子 /

がん化学療法看護認定看護師 廣瀬さゆり /

がん化学療法看護認定看護師 古賀祐美 / 看護師 内田喜子 / 薬剤師 筒井佑紀



一般社団法人アジアがんフォーラム アジアでがんを生き延びる

登壇者：

一般社団法人アジアがんフォーラム 河原 ノリエ、坂野 哲平、大割 慶一
厚生労働省 健康生活衛生局 がん・疾病対策課 課長 西嶋 康浩
東京大学大学院新領域創成科学研究科人間環境学専攻 教授 稗方 和夫
庄川しばたクリニック（富山県） 院長 柴田 祥宏



Asia Cancer Forum BEAUTY and Health Project

Speakers:

Asia Cancer Forum Norie Kawawahara | Teppei Sakano
National Cancer Society Malaysia Saunthari Somasundaram
Ministry of Health Malaysia Murallitharan Munisamy
Union for International Cancer Control Noraryana Binti Hassan
Jeff Dunn AO



埼玉県立がんセンター 口腔がん検診のすすめ

登壇者：

歯科口腔外科 八木原一博 病理診断科 石川 文隆
(一社)口腔がん撲滅委員会 代表理事 柳下 寿郎
(一社)浦和歯科医師会 口腔がん検診委員会 委員長 大畑 仁志



埼玉県立がんセンター がんと骨の健康

登壇者：

整形外科 リハビリテーション室 小柳 広高

協賛企業・団体

特別協賛

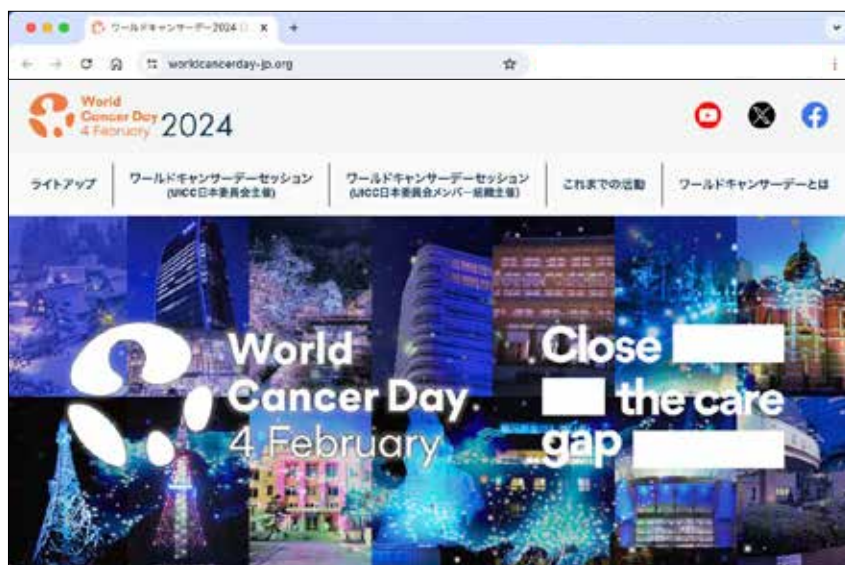


協賛



事前告知

- ・UICC日本委員会より、加盟メンバー組織へ告知
- ・47都道府県がん対策課にイベント案内ファクス送信
- ・厚労省記者クラブ、全国メディア、PR TIMESにリリース配布
- ・全国の患者会にメール・ファクス・郵送等で案内
- ・全国のがん診療連携拠点病院相談支援センターにチラシ送付



URL : worldcancerday-jp.org

Facebook



リーチ数(表示回数) : 8,544 エンゲージ数 : 344

X(Twitter)



表示回数 : 501

PR TIMES



※約300媒体に配信

掲載・報道

PR TIMES



SNS (Facebook/X)



国立がん研究センター東病院 様



MSD株式会社 様



(一社)日本薬学生連盟 様



日本対がん協会 様



栃木県立がんセンター 様



佐々木研究所附属玄雲堂病院 様



板橋障害年金相談室 様



中部電力ミライタワー 様



朝日新聞DIGITAL 様



仙台放送 様



都立駒込病院 様



東スポWEB 様



Yahoo!ニュース (朝日新聞DIGITAL) 様



下野新聞 SOON 様



愛知県がんセンター 様



Yahoo!ニュース (東スポWEB) 様



国立がん研究センター 様



日刊ゲンダイ DIGITAL 様



大腸がん情報サイト 様



介護医療福祉の総合サイトTIS 様



日本肺癌学会 様



北日本新聞社 webun 様



Yahoo!ニュース (北日本新聞社) 様



新潟日報デジタルプラス 様



埼玉県立がんセンター 様



日本製薬工業協会 様



産経新聞ニュース 様



新聞 新潟日報社 様



新潟日報デジタルプラス 様



愛知県がんセンター 様



UICCワールドキャンサーデー2024に参加して

栃木県立がんセンター 副病院長・病理診断科
平林かおる

栃木県立がんセンターは今回初めてUICCワールドキャンサーデー、ライトアップ ザ ワールドに参加させていただきました。伝統ある栃木県庁昭和館から夜空に向けてブルーとオレンジの光を放ち、がんに向かう思いを込めてメッセージを発信しました。“二人に一人ががんになる時代”と言ってもがんに対する関心はいまだに低く、この日県庁前で道行く人にワールドキャンサーデーのチラシを配りましたが、受け取ったのは10人に1人もいないというのが現状でした。

栃木県立がんセンターは都道府県がん診療連携拠点病院として、学問に裏付けられた最高の技術を県民に提供すべく、がんゲノム医療をはじめとする個別化医療や高難度手術も取り入れ、日々の診療に邁進してきました。近年は新たにバイオバンク事業の設立や

研究所の拡充を行い、トランスレーショナルリサーチの実践による新しい治療法の開発や、次世代への医師・研究者の育成にも努めてきましたが、がんに向かうためには医療者のみならず一人一人ががんに対する意識を高め、生活習慣を含めたがん予防の推進が必要不可欠です。今後は子供たちへのがん教育や、喫煙の影響、検診受診率向上などがんに対する知識の普及啓発活動の重要性も増してくると思われます。ワールドキャンサーデーを通してがん撲滅に対する意識が世界中に広まり、できることを考え行動する日が一日でも増えることを願っています。これからも栃木県立がんセンターはさらにレベルアップして、ワールドキャンサーデーに参加したいと考えています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



2024 ワールドキャンサーデーに参加して

埼玉県立がんセンター 病理診断科 科長・診療部長

神田 浩明

埼玉県立がんセンターは2022年からワールドキャンサーデーのライトアップイベントとオンデマンドセッションに参加しています。2024年、ライトアップは埼玉スタジアム2002と埼玉がんセンターで行いました。埼玉スタジアム2002は年明けまでイベントの予定が決まらず、万一の場合を考えて他の場所も検討しました。2024年は新札切り替えの年ですが、新札の肖像画の一人、渋沢栄一氏は財界を代表して学界の青山胤通氏、政界の桂太郎氏とともにがん研究会の創設に深くかかわっていたので、渋沢氏の出身地である埼玉県深

谷市でできないかあたりましたが、うまくいきませんでした。年明けに埼玉スタジアムから了承の返事をいただき、ほっといたしました。ご協力をいただいた埼玉スタジアム2002関係者の皆様に深く感謝いたします。埼玉がんセンターのライトアップ機材は 横田治重前院長のご寄付によるもので、今年で2回目のワールドキャンサーデーでした。ライトアップの前の週、埼玉は風が強く、予行を行ったときには暴風状態で、また、翌日5日は大雪と荒れた天気でしたが、その合間の晴れて穏やかな日にライトアップができました。

オンデマンドセッションは埼玉がんセンターから2つ発表しました。前年度に引き続き口腔外科チームによる、「口腔がん検診のすすめ」と 整形外科・リハビリテーション室 小柳広高先生による「がんと骨の健康」です。増加が続く口腔がんを早期発見するための努力がよくわかりました。また、がん患者さんの骨粗鬆症対策の重要性がよく示されています。諸先生には学会などで時間がない中、セッションを用意してくださり、感謝いたします。ともに力作ですので、多くの方のご視聴を願っています。

今年からの新しい試みとしてX(旧ツイッター)、埼玉がんセンターのアカウントでワールドキャンサーデーの情報発信を行いました。この試みは今後も続けていきます。埼玉がんセンターはYouTubeチャンネルもありますので、こちらもご覧ください。



防寒着に身を包んだ
埼玉がんセンター撮影チーム



埼玉スタジアム2002撮影チーム

UICCでの学びが拓く未来

公益財団法人佐々木研究所 附属杏雲堂病院 院長

梶村 春彦

本年のWCDもUICC加盟組織として公益財団法人佐々木研究所は、ライトアップイベントに参加させていただいた。このニュースレターの執筆を機に、UICCのことについて振り返ってみたいとおもう。

1980年代のはじめだったと思うが、UICC主催の最新のがん研究を主に発展途上国の若者に教えるというようなコースがあったかと思う。当時日本でもoncogeneの研究が始まった頃で、留学帰りの新進気鋭の日本の研究者が講義をしていた。わたしは、その頃大学院生で、是非聞きたいと北川知行先生にお願いして、一部参加させていただいた。そもそもこれは、発展途上国の若者を念頭においたもので、主催国の大学院生などは対象としていないと言われたのであるが、当時わたしの所属していた教室は発展途上国並みであるからとかなんとか言ってお願いした。当然ながら指導教官などは非常に冷たかった。また、講義のあとの感想のときにアジアから若者が、日本人が参加しているのはおかしいというコメントがあったかと思う。講義を聞いたり、パンフレットをもらったり勉強になったのだが、この種のものは、いろいろな学会でも国内外を問わず行われ、自分の所属しているところは遅れているから参加したいという若者は多数いて、そういうセミナーに必ずいるという、“勉強家”の若手病理医もたくさん目にした。

先端科学というような領域を、いわゆる発展途上国の若者のために体験させたりすると、普通は彼らは国をはなれいわゆる先進国に職をもとめ、場合によっては生涯帰国しなかったりする。Economist Aug 17, 2024の”Enticing the best and the brightest” というbriefingをみても、そういう若者たちをいかにとりこむかが、(先進国でも)国力の発展に決定的に寄与するので、immigrationの障壁が面倒な国は損をするのではないかという論調である。もちろん今はIT関連の技術者が話題になる。人気のあるのはカナダ、オーストラリア、米国で、逆に流出が過剰なのは中国、インド、イラン、などで、UAEが最近優遇策をはじめて健闘しつつあるというような記事である。日本はこのような議論のとき、話題の外である。

日本の先進的大学へ留学希望者がいた場合、米国NIHのように最先端科学分野で博士号をとらせ、その過程で、その研究室にも貢献してもらう(肉体労働、頭脳労働、国際的視野など留学生が研究室に存在するメリットは多い)と同時に彼ら自身のキャリアパスにも役立つだろうということである。ただ、分野は受け入れ先の意図ばかりで選ぶと結果的には残念なことになる。あるアフリカの国で、子供の目の病気が多いのでそれに貢献したいと近代的な眼科学(臨床)を学びにきた、やる気ある女性が、最初の受け入れ先(眼科)の都合でretinaの発生に関する基礎研究を先端的研究所で行うことになった。もちろんそれなりの科学的成果をあげ、博士号をとったものの、帰国して母国に職がない。送り出す時には、職を用意するといっていたのにである。こうなると、米国などでポストクをすることになる。途中でmotivationというのは変化することはあると思うが、ニーズにあったトレーニングを与えられる場を丁寧に用意しないといけないと思う。

いま振り返るに、40年前にUICCの講義を聞かせていただいたことがキャリアに影響したかどうかはわからないが、病理学分野はほかの医学分野もそうであるが、予想のごとく、ゲノムを基盤として行われている。いまUICCが主に貢献している発展途上国のがんの予防や行動変容などなど、重要な分野ではあるが、たとえば日本癌学会の会員のなかで、関わりの強いかたは少ないであろう。基礎的医学的色彩のつよい日本の関与は、大変貴重であるが、未来にむけてこうした周辺応用領域も含めうまく関わりあってほしい。



2024年ワールドキャンサーデーに参加して

(公財) 世界遺産相倉合掌造り集落保存財団 事務局長

中島 仁司

私は(公財)世界遺産相倉合掌造り集落保存財団の中島仁司と申します。私たちは富山県の五箇山にある世界遺産の相倉集落を維持・保全する活動を日々行っております。

この相倉集落は、集落全体が国指定史跡かつ世界文化遺産に登録されている「文化財」でありながら、一方では集落内に今なお人々が住み生活を営んでおり、「人の住まう史跡」「生きた世界遺産」などと呼ばれています。実は私自身も、この相倉集落内の合掌造り家屋で生活を営んでいる住民の一人です。

そんな相倉集落へ、2021年から数え4回目となるワールドキャンサーデーライトアップイベント参加のお話をこの度も戴きました。雪国・北陸地方に属する富山県。その中でも五箇山は、日本屈指の豪雪地帯で知られています。特に開催の2月初旬は雪の最も多い時期であり、合掌造り家屋の急こう配を落した雪が家屋の一階部分を覆い隠してしまうのに加え、照射用ライトが時間の経過により降雪に埋もれていくことも懸念され、計画・準備・前日の試験点灯に加え当日の除雪作業や各ライト位置の調整も求められるため、ライトアップの実行には地域の理解と協力を必要とします。そのため、集落の寄合の中で区長がこのライトアップイベントの内容を改めて説明し、住民の話し合いの中で、照射家屋を合掌民宿「勇助」とする形で、この度も参加協力を決定しました。

実は私は12年前に結婚を機に婿としてこの相倉集落へ移り住んだ身であります。妻と妻の祖母(以下「きよ婆ちゃん」と私の3人家族で私の相倉での生活はスタートしたのですが、結婚後ほどなくきよ婆ちゃんの末期の胆管癌が発覚し、医師から余命宣告を受けたときの衝撃は今でも忘れません。しかしきよ婆ちゃんは、それから約1年半もの間、私に畑のこと、雪かきのこと、地元の風習やお参り事など、この土地での生活のことをたくさん教えてくれました。そして、私の前では自らの苦しみを一切口にせず、代わりに周囲への感謝を口にし、気丈にして愚痴らず、いよいよ寝たきりになると、「皆のおかげで幸せな人生じゃった」と私に語ってくれました。

宣告された余命を大幅に過ぎ、お爺ちゃんのもとへ旅立たれたきよ婆ちゃん。その姿から私が学んだことは、「より良い生き方が、より良い逝き方に通じる」という事と、あとは、「癌は早期に発見し、治療すべきである」という事です。きよ婆ちゃんはすごく賢く、気丈で、しかし昔人間の気質なのか、身体に異変を感じても、病院に行かず頑なに我慢する方でした。おそらくは私が家に入る前から何かしら異変は感じていたのだろうと思います。そして、実は私の母も2018年に咽頭癌が発覚したのですが、抗がん剤と放射線治療を経て、今では経過観測の5年を過ぎ寛解(かんかい)し、旅行したりスポーツジムに通い運動したりと、すっかり元の生活を取り戻しています。

このように、現実とは言えませんが、癌は早期に発見し治療すれば治る可能性があります。癌は確かに怖い存在で、本人はもちろん、家族もすごく不安になり、寂しい思いに襲われます。だからこそ、定期的な健診と早期治療が大事であると、3人の子の親となった今、よりいっそう強く感じます。

癌を患い不安にさいなまれている人たち、癌を克服しようと頑張っている人たち、癌を乗り越えた経験を持つ人たち、そんな人と人との架け橋となり得る大きな取り組みの一つにこのワールドキャンサーデーのライトアップイベントがあり、そのイベントの一端を2024年も担わせて頂いたことに感謝します。



UICCワールドキャンサーデー 2024 記念点灯式 ～岐阜より～

岐阜大学医学部附属病院

宮崎 龍彦

UICCワールドキャンサーデーのモットーClose the care gap. ?未来に光をつなぐ- は、私ども地方でがん診療を展開する人間にとってはとても有り難いコンセプトです。これに共感し、岐阜大学では吉田和弘学長の号令のもと、例年通りUICCワールドキャンサーデー記念点灯式に参加しました。岐阜市役所市民交流スペースにパブリックビューイング会場を設えて点灯式に臨みました。会の趣旨に賛同頂いた岐阜市民病院に今年も共催のかたちでご参加いただき、Close the Care Gapのテーマに沿って、地方都市におけるがん診療の挑戦、試みについて会場でポスター展示を行うとともにオンデマンドビデオを放映し、点灯式

の時間には生中継に切り替えました。今年は同じ岐阜県内から高山市においてもライトアップイベントが開かれるようになり、少々ライバル意識も感じながら綺麗な映像を届けることを意識して、スマホながらカメラをグレードアップしました。記念点灯式では、昨年に引き続き岐阜市役所の新庁舎をUICCカラーであるブルーでライトアップし、綺麗なライトアップの映像を届けることが出来ました。来年は岐阜市図書館（みんなの森）のイベント会場にパブリックビューイング会場を移し、参加者も増やして大々的にカウントダウンを行いたいと思います。



2024ワールドキャンサーデーへの参加と 三重大学医学部附属病院からのご報告

三重大学医学部附属病院・病院長、総合がん治療センター・センター長 池田 智明
三重大学医学部附属病院・副病院長、総合がん治療センター・研究支援部門長 渡邊 昌俊

三重大学医学部附属病院は2024ワールドキャンサーデーのライトアップに参加いたしました。ライトアップは、附属病院1階の休憩コーナー（ウッドデッキ）で行いました。この場所は患者さんの憩いの場で、晴れた日には飲食や休憩に使用され、クリスマスにはライトアップされています。今回のライトアップは、がん支援部門の水野部門長、河村さんにお世話になり、問題なく参加できたことに感謝いたします。

UICC日本委員会のメンバー組織である三重大学医学部附属病院について、現状を報告させていただきます。本院は都道府県がん診療連携拠点病院、小児がん拠点病院、がんゲノム拠点病院として国際水準のがん診療と研究を推進しています。新たに、2022年11月に、本院内に総合がん治療センターを設立いたしました。がん研究センターとは異なり、医学部附属病院の利点を活かしつつ、(1) 患者を中心に据えた診療科・職種横断的な臓器別Unit医療を推進し、医療の質を向上させる、(2) 県民はじめとする患者さんに対し、本院の有するがん診療機能をセンターとして集結

させ、最新のがん治療をサポートし、継続して提供する、(3) 質の高い研究を推進するなどの目的を掲げております。組織としては、小児・AYAがん治療部門（平山部門長）、成人がん治療部門（間山部門長）、先端がん治療部門（奥川部門長）、がん支援センター部門（水野部門長）、研究支援部門（渡邊部門長）よりなり、それぞれの部門に、臓器あるいは治療別にUnitが存在します。現在、県内のがん患者の1/3程度が大学で治療を受けるようになり、また、がん医療対策に関して、県との連携も十分できる体制となりました。今後、UICCの活動に参加することで、県民へのがん治療のみならず、日本や国際的に貢献していく所存です。



三重大学医学部附属病院でのライトアップ



総合がん治療センター設立記念 市民公開講座記念撮影
(中釜理事長、池田病院長を囲んで、各部門長)

Cross-boundary Cancer Studies

一般社団法人アジアがんフォーラム 代表理事
東京大学東洋文化研究所 特任准教授

河原 ノリエ

一般社団法人アジアがんフォーラム（以下、ACF）は、UICC（国際対がん連合）日本委員会メンバーとして、「アジアでがんを生き延びる」をテーマに、アジアにおけるがん医療におけるユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）を実現するための政策提言活動を、東京大学を基盤として学際的に続けてきました。アジアとの連携を推進する中で、医療格差の大きい地域との協力には、歴史的文化的背景を学際的に結びつける学術的基盤が必要であるとの認識のもと、2011年に赤座英之先生が提唱された「Cancer is Mirror」という概念を継承し、「Cross-boundary Cancer Studies」を通じた学び合いを推進してきたのです。

本年のワールドキャンサーデーは、このCross-boundary Cancer Studiesの一環として

「アジアでがんを生き延びる」と「BEAUTY and HEALTH Project」の2本のオンデマンドセッションに参加させていただきました。

アジアも日本の地方も同じ課題をかかえていることは、当法人が2021年から取り組んでいるTOYOTA財団「日本と中国の地域コミュニティにおける誰ひとり取り残さないがん暮らしを問い直す学びあいの構想と実践」でも、その詳細な地域のなかでの課題があきら

かになってきています。アジアも日本の地方も、先進的な取り組みから周縁化されている構図のなかで同じ課題を抱えています。そして、少子高齢化のなか、治療技術の進歩により死病ではなくなったがんを抱えて生きてゆく人たちが、病院の外側である地域コミュニティに急増しているにもかかわらず、社会は未だその状況に対応できておらず、患者や家族が多くの困難に直面しているのです。誰にでも起きうる病気として臆することなくがんであることを公言でき、そして地域コミュニティで支え合う社会を目指すことが、アジアのがんのユニバーサルヘルスカバレッジ（誰ひとり取り残さないがん医療）の実現のために必要ですが、感染症と異なりがんはこれまで個人の病とされ、地域で取り組む実践がなされなかった経緯があり、地域コミュニティの取り組みとしてはまだ多くのハードルがあります。

しかしながら、ワールドキャンサーデーという、立場の異なる人々が皆でひとつになることができる場で、地方やアジアという先進的ながん医療からのアクセスの課題を抱える地域のがんについて、取り組みを考える得難い機会となりました。



UICC 日本委員会加盟組織

愛知県がんセンター	(一社) アジアがんフォーラム	大阪国際がんセンター
神奈川県立がんセンター	がん・感染症センター都立駒込病院	(公財) がん研究会
(公財) がん研究振興財団	(公財) がん集学的治療研究財団	九州がんセンター
国立がん研究センター	埼玉県立がんセンター	(公財) 佐々木研究所
(公財) 札幌がんセミナー	静岡県立静岡がんセンター	(一社) 全国がん患者団体連合会
(公財) 高松宮妃癌研究基金	千葉県がんセンター	東京慈恵会医科大学
栃木県立がんセンター	新潟県立がんセンター	(一社) 日本癌学会
(一社) 日本癌治療学会	(公財) 日本対がん協会	(一社) 日本乳癌学会
(特非) 日本肺癌学会	(公社) 日本婦人科腫瘍学会	東札幌病院
(公財) 北海道対がん協会	三重大学医学部附属病院	宮城県がんセンター

賛助会員 協和キリン株式会社(山極-吉田国際奨学金)
(公社) 日本放射線腫瘍学会

UICC日本委員会 2024年役員

委員長	野田 哲生(がん研究会)	UICC-AsiaRegionalOffice (ARO)	野田 哲生(がん研究会)
幹事		UICC 本部	
総務	中釜 齊(国立がん研究センター)	Fellowship 委員	中釜 齊(国立がん研究センター)
学術	垣添 忠生(日本対がん協会)	TNM 委員	浅村 尚生(東京歯科大学)
財務	吉田 和弘(岐阜大学)	名誉会員	
ARO担当	野田 哲生(がん研究会)	青木 國雄(元愛知県がんセンター)	
予防・疫学領域担当	松尾恵太郎(愛知県がんセンター)	富永 祐民(元愛知県がんセンター)	
事務局担当		大島 明(元大阪府立成人病センター)	
監事	増井 徹(青山学院大学)	北川 知行(がん研究会)	
	池田 徳彦(東京医科大学)	田島 和雄(元愛知県がんセンター、三重大学)	
専門委員会委員長		浜島 信之(元名古屋大学)	
疫学予防委員会	松尾恵太郎(愛知県がんセンター)	日本委員会事務局(がん研究会内)	
喫煙対策委員会	望月友美子(新町クリニック)	神田 浩明(研究:幹事会担当)	
患者支援委員会	吉野 孝之(国立がん研究センター東病院)	(埼玉県立がんセンター)	
TNM委員会	佐野 武(がん研究会有明病院)	関本 敏之(事務:委員長業務補佐)	
広報委員会	河原ノリエ(アジアがんフォーラム)		
小児がん委員会	中川原 章(椎原寿恵会)		
対がん協会	石田 一郎(日本対がん協会)		

2025 年度の UICC 日本委員会総会は
7月26日(土) 12:00 ~ 14:30 経団連会館
(Web 開催の場合 13:00 ~ 予定)

UICCホームページ : www.uicc.org
UICC日本委員会ホームページ : www.jfcr.or.jp/UICC
UICC-AROホームページ : <http://uicc-aro.org/>